

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮北小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では「主語、述語」にかかわる問題の正答率が低かった。ふだんから、主語や述語を意識して文を読んだり書いたりさせる。 ・算数では小数の減法や小数の除法の計算、割合の正答率が低い学年があった。小数の減法や除法の計算も整数と同じように計算できるように気付かせ、そのための手順を考えさせる場面を重視する。「割合」の問題では、数直線を使って考えさせたり、答えの値の意味を考えさせたりする。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の「読むこと」、「書くこと」の領域の正答率が低い学年が多かった。「読むこと」の指導では、叙述や描写を基に考える、要約する、自分の考えをまとめるなどの活動を重視する。「書くこと」の指導では、要約などの多様な言語活動の充実、モデルの提示等の工夫を図る。 ・算数の「単位量あたりの大きさ」、「複数の数量から立式する」の問題の正答率が低かった。「単位量あたりの大きさ」の指導では、2つの関係を考える際は、数直線を用いて考えるようにさせ、演算決定の方法を理解させる。「複数の数量から立式する」の指導では、数量の意味を考えさせたり、立式の意味の説明をさせたりする活動を重視していく。

今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> ・算数の小数の減法や除法の計算の正答率が低い。 <指導上の課題> ・小数の減法や除法の計算の手順を考えさせる場面、計算方法の習熟を図る場面の指導の工夫が必要である。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリル、ドリルパーク等のICT教材を計画的に使用するとともに、家庭学習を充実し、知識・技能の定着を図る【授業時・家庭学習時】。計算方法を学習する際には、既習事項と結び付けて考えさせたり、計算方法を説明したりする活動を重視し、計算の習熟を図る【小数、除法の単元の学習時】。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <学習上の課題> ・国語の「読むこと」の正答率が低い。 ・算数の二つの数量関係と図の関連付けや「単位量あたりの大きさ」の問題の正答率が低い。 <指導上の課題> ・読む力を高める指導の工夫が必要である。 ・立式だけでなく、式と図や数直線と関連させて考えさせる場面が十分に確保できていない。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・叙述や描写をもとに行動や気持ちを捉える、目的に応じて要約する、根拠を基に自分の考えをまとめる活動を充実させる【R6年度さいたま市学習状況調査で「読むこと」の正答率が60%以上】。立式の際には、言葉や図などによる表現と関連付けて考えたり、表現したりする活動を充実させる。【R6年度さいたま市学習状況調査で「思考・判断・表現」の問題において、正答率が70%以上】。

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市学習状況調査の小数の減法、除法の問題の正答率はどの学年も市の正答率を上回ったが、正答率の低かった学年もあった。
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市学習状況調査の国語の「読むこと」の問題の正答率は、4学年中、3学年が正答率60%を上回った。 ・さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」の問題の正答率は、4学年中、3学年が市の平均値を下回り、1学年が上回った。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数の「知識・技能」の観点において、二教科とも上回った。国語においては、「漢字を正しく使う」の項目の正答率が低かった。漢字の練習の工夫をし、漢字を習得させていく。算数においては、「速さ」の問題の正答率が低かった。三つ以上のものを比べたり、いつも比べられるようにしたりするためには、単位量あたりの大きさを用いて比べるとより能率的に比べられることを理解させ、単位量あたりの大きさを用いて比べることができるように指導する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数の「思考・判断・表現」の観点において、二教科とも上回った。記述式の問題の正答率が低く、自分の考えを分かりやすく書いたり、まとめることに課題がある。どの教科においても、書くことを重視し、書く時間を十分に確保し、自分の考えをもたせ、根拠を基に書く、事実と感想、意見を区別して書く、自分の書いた文章を読み返し、修正するなどの習慣を身に付けられるようにする。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の「知識・技能」にかかわる問題について、市の平均正答率を上回った学年が多かった。 ・算数の「知識・技能」にかかわる問題について、4学年中、2学年が市の平均正答率を上回り、2学年が下回った。 ・算数の小数の減法、除法、割合の問題の正答率が低い。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の「思考・判断・表現」にかかわる問題について、4学年中、2学年が市の平均を上回り、2学年が市の平均正答率を下回った。 ・算数の「思考・判断・表現」にかかわる問題について、4学年中、2学年が市の平均正答率を上回り、2学年が下回った。 ・国語では、登場人物の気持ちを考える、中心となる文を見つける、自分の考えを表す、話し手の意図を捉える問題の正答率が低い。 ・算数では、単位量あたりの大きさ、複数の数量からの立式の問題の正答率が低い。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリル、計算カード、ドリルパークの活用、プリントの選択、習熟の場面での取組方法(ドリル、ドリルパーク、スタディサプリ)の選択により、計算力を向上させることができた。 	変更なし
思考・判断・表現	A	<ul style="list-style-type: none"> ・音読練習の重視、視覚資料の有効活用、登場人物の心情についての十分な共有の時間の確保、ICT機器の活用等により、「読む力」を高める指導の工夫・改善を図った。 ・自力解決の際には、様々な表現方法に気付かせたり、話し合いや児童の考えの共有の時間の確保したりするなどの指導の工夫・改善を図った。 	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)